

京城日報

刊夕日一廿
發行所 京城日報社
印刷所 京城日報印刷部
電話 三三三三
定本 一月三圓 三月九圓 半年一五圓 一年二八圓
廣告費 別表
代售處 各埠各大書店

●我に印度洋警備の提議

英艦は印度洋警備の爲め日本に對し蘇西以東の警備に關し我艦二隻急派の提議を爲し來り

●楊子江にて獨人捕虜

米艦「チャイナ」は支那の「チャイナ」汽船の捕虜なるが去る十八日楊子江にて英國軍艦の捕虜を受けた

●モラノの獨兵降服

公報に據るにモラノの獨兵降服はモラノの獨逸守備兵は降服しモラノは全く本意を失ひ莫大に敗北した

●軍資金百萬圓と決死隊

軍資金百萬圓を充てる革命軍は十九日東京より東京に著る革命軍は決死隊を某地に送る可し

●革命軍南方を風靡す

革命軍は南方を風靡す

●五國鹽稅引渡を拒絶す

五國政府は北京政府の鹽稅引渡の請求を拒絶し革命軍を交戦團體として承認するに同意するに同意する

●對支有志大會

對支有志大會を開く

●上院と保險案

上院は保險案を通過する

●東拓案と與黨

東拓案と與黨

●水無瀬子爵

水無瀬子爵は久遠

●鑛業出願趨勢

鑛業出願趨勢

●牛皮市況改良

牛皮市況改良

●慶南諸稅收狀況

慶南諸稅收狀況

●釜山金融狀況

釜山金融狀況

●移出米狀況

移出米狀況

●米價の大勢

米價の大勢

●在滿鮮人の境遇

在滿鮮人の境遇

●本年の官製鹽

本年の官製鹽

●航空參觀の歸途

航空參觀の歸途

●商議所設立時期

商議所設立時期

●土木會同第一

土木會同第一

●若見待從武官

若見待從武官

●川村中將消息

川村中將消息

●阿部社長東上

阿部社長東上

●山馬

山馬

●雪北

雪北

●香南

香南

●山金

山金

●江華

江華

●公州

公州

●州光

州光

●雪北

雪北

●香南

香南

●山馬

山馬

●雪北

雪北

●香南

香南

●生徒募集

生徒募集

●京成公立高等女學校

京成公立高等女學校

●新刊書御案内

新刊書御案内

●毛皮

毛皮

●日東商會

日東商會

●新刊書御案内

新刊書御案内

●毛皮

毛皮

●日東商會

日東商會

●新刊書御案内

新刊書御案内

越後大評定

第百三十七回 早川貞水口演
名君水戸光圀公



お聞きなさい

演藝案内

大正館

御成座

黄金館

花館

美人

わきが

お聞きなさい

演藝案内

大正館

御成座

黄金館

花館

美人

わきが

お聞きなさい

演藝案内

大正館

御成座

黄金館

花館

美人

わきが

お聞きなさい

演藝案内

大正館

御成座

黄金館

花館

美人

わきが

お聞きなさい

演藝案内

大正館

御成座

黄金館

花館

美人

わきが

ライオン歯磨

他上謹告

ライオン歯磨本舗 小林 富次郎
支舗 大坂市東區南町二丁目
名古屋市桑名町四丁目



七日ツツタラ鏡をどうも色白なるゲンシ液

朝鮮産業指針

朝鮮總督府農商務部
朝鮮總督府農商務部
朝鮮總督府農商務部

朝鮮總督府農商務部

朝鮮總督府農商務部

朝鮮總督府農商務部

朝鮮總督府農商務部

朝鮮總督府農商務部

朝鮮産業指針

朝鮮産業指針

朝鮮産業指針

朝鮮産業指針

朝鮮産業指針

朝鮮産業指針

貴族院
(三十)

議院は二十一日午前十時開會諸般報告あり日程に入る
大正五年度歳入歳出總豫算追加案
第二號審査期限を定むる件
同上特別會計豫算追加案（特第二）

二十一日宮中に於て叙位式を
我宗秩寮總裁位記を傳達せり
るもの如左(東京持電)

撰密顧問官從二位 勳一等子爵	河澤 眞孝	其の跡を絶ち居りし御國汽船ヒラ ヤ號(六九二噸)は二十日午後上海 より入港、大連へ向ふ爲め燃料積込
叙正二位		
大審院判事	馬場 原浩	
正四位勳三等		

正四位下
正四位上
正四位下
正四位上

東正教部勲二等 實谷銈太郎
叙從三位(各通)

●軍務局長轉補

入狀 況を聞くに昨年十二月末現在に於ては十二月一箇月の收入總額は三十五萬三千三百八十六圓にして四月より同月迄の收入累計は二百六十萬餘圓に達したと云ふ。

歐米各國へ出張被仰付へ各
海軍中佐 山梨 睦

○**中甸對外貿易**
 二月中旬對外貿易は輸出二千二百三十三萬五千圓輸入二千百九十一萬七千圓に與かるるべし

不ふ必ひつ要ようとして握にぎり潰つぶしか

議院特別委員會附格の日支、滿洲兩銀行案は同地方に利益關係を有せんとす。東支案の興議院よりの發附を待ち三案を合せて研究するの必要あるに目下暫間中止の姿なるが今兩案に對する上院の形勢を見るに日支銀行發案なるものは支那政府と合同經營に屬すべき性質のものにして既に成立せる日銀銀行及び中日興業會社等と全く其の性質を同じうするものに對して而も右兩者は事實上何等發展をなさざるは日支關係の圓滿を缺けるに結果を來らざれば日支銀行も亦日支兩國々交發善せられざる間は假令滿洲銀行の成立を見るも其の實行の不可能なるは明かなり若し強いて此種銀行の發行を必要とせば日銀、中日兩社の反感を計るの舉に出るを捷徑なりとて滿洲銀行支店を奉天以外に設け營業を開始しつゝあるの狀況に鑑み殆んど新銀行營業の弊に陥るは明かなり餘地なく強て之れを行へば競争の弊に陥るは明かなり目なりこの見地より上院内の斯業經驗者は勿論一般に兩案を不必要として將に握り潰しの運命にあるものゝ如し（東京特電）

土地峻嶒行動困難——露軍の大苦戰
最後の戦闘は非常なる困難を伴ひたり、同方面（どうほうめん）

地は戦場なりし爲め軍糧運搬を阻害せられ爲めに露軍をして準備を整へて敵の必死の逆襲二回を撃退したる後敵軍陣地の左側面たるアルム平原を通じて南方に移動し左翼隊はランテケン砲臺を試みたるを遂に算を亂して逃走せり十六日朝バランテケン砲臺中の一堡壘と内部堡壘四個とを奪取したる上露軍は同日正午を以てエルゼルムに入城せりエルゼルム市街は露軍は艦隊にして僅かに數箇の宮殿建築物を残せるのみ而して要港砲臺

夜露軍中央部隊は第二防禦線の四砲臺に強襲を行はんとす敵砲臺に圍突するの餘隙なきに至りし時十五日

六、貿易發展

治三十二年五月一日開港に依て
 が貿易港たる使命を荷ふに至つ
 初は、何しろ素寒貧な自面の書
 一躍紳士の群に伍して、軽らぐ


たるに過ぎなかつた。然れども
に天庖豊富なる全忠大平野を負

面に黃海の好漁區を控へたる群
は、何日までも吳下の舊阿蒙
すして、當然歩むべき發展の經
ステツババイステツバ陸に踏

三線連絡特定運賃の實施期限は三
 月を以て終るべく蒲鉾及び大連商

議所等は安奉線減賃の結果につ
來の調査に基き更に調査の歩を
る事となりしが猶ほ慎重に研究
てまだ公然其の意見を發表する

問題につき近く議論の起るを見
形なり


撫順炭坑
 既報の油脂工業會社が大連に創設
 するに當り、滿洲各地に
 採炭の事業を興し、
 一般に工業熱の勃興を來たせて
 居る。茲に本年度營業豫算約三
 百萬圓を計上し、無負欠り、
 採炭事業を擴張する。

電氣動力を供給して窒素製
硫酸製造等の化學工業を發達

此の用務を帯び居るといへり

段奉天^{たんてん}上將軍^{じやうしやうぐん}は昨秋^{さくしゆ}其部下^{きふく}を
關東州^{かんとうしゆ}の我警察^{わがけいさつ}制度^{しど}現狀^{げんじやう}を視察^{しさつ}

該意見書の要旨は關東州全境に於ては、
警察官吏數百名に過ぎずして其充實を
圖るに良好なるに奉天省に於ては、
城のみに數千の巡警を配備しあへ

の素質を向上し職務上に忠實な
むべしと云ふにありし處袁總

心へしと云ふにありし處素總そとくふの素質を向上し職務上に忠實なしんじつ

普通(一冊 金三十文) 題
匿名一冊 毎に金五

京城支那領事館前
 萬千閣四段上二階樓
 付家拾捌四
 町庭寫眞館電話二三三六
 交員探出 希望者屢膝寄
 中來所 黃保險株式會社
 日華生金
 鮮語京國漢文及法律大
 月業前
 大漢明
 國語普及學會

日本買入
御報參上
地方送金

京城本町二丁目森田文七堂
▲各受驗忘願用寫眞は
寫眞品黃金町二電一四
廉價撮影即日確賣
▲御報即時參上

電話 二七番
四七五番
龍屋前

自轉車買受
林又七出張
募集
問屋

債券 諸株式 賣買

債権者株式 資質
 公債 三井物産
 大阪野村徳七代理店
 本町二丁目 友商
 第九三番 田中 吉南
 長九三番 田中 吉南
 明 治 町 柔術道
 切の治療御依頼に應ず

心給を年金退隱料長期立替
利息以内にて無手

大賣出 離人形 御望
 舊英子 御望
 離英子 御望
 離英子 御望

貸家 焚忠懷赤荻菜雞場
 舊王城拂下朝鮮式
 絕社庭園廣大
 耐付景色 極好向希望
 京城新町電話二一七番

永樂町一
 龍陳列館前
 江州屋本

城永藥町一丁目●電話一八

城永藥町一丁目◎電話一八

京成學校組合告示第一號

入京成學校組合明治內一居正ノ内地
 日二ヨリ同治十三午三月十四
 月マテ以就學シ始期ニ送スルニヨリ
 右學齡兒童保該名所定ノ入學者ニ
 戶籍帳本若抄本ヲ添ヘ來ル二月二
 十九日出願ノ京成學校組合及ハ京成府
 龍山出張所ニ提出スルヘシ
 大正五年一月十日
 朝鮮總督府府尹 金谷 充

長崎縣 赤馬鈴薯種子

甘藷元氣種
 赤馬鈴薯種
 奈良青種
 亦良種
 仁川京町地所
 海陸委託問屋
 物產委託問屋

大坂 山田安民藥房

目ニ見ヘテ

ズン／＼トキク

シユマズイタマフ

井上博子

目藥

眼病を不潔い布や指
 頭で擦るは目の爲に
 悪いからロート目藥に
 は消毒した布と下圖
 の様な新案の點眼器を
 使へてある

小半鐘
 本館：東京 大阪 山田安民藥房

酒清良醇

仁川京町地所

吉金

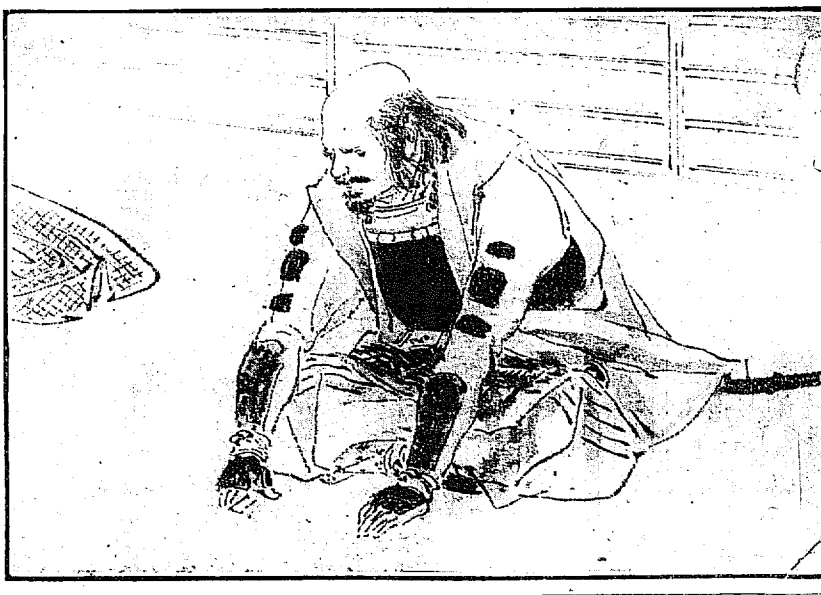
店酒

番四六七路電

千生瓢

(131) 須藤南翠作 筒井年峰畫

杜鵑一聲(上)
中村文雄は再度の使節來朝の次
節を、大正閣に上つて勝家に執次
だ。勝家は鷹揚にうなづいて、
「柳二十條、御調二十條の進物は、
芳志の程よく、受領致し、折柄不
足を感ずる勢も、頗る興へて、最
期の宴を盛んにささうと、申し
付けた。
文雄は之れを領承して、恐る
頭を擡げた。

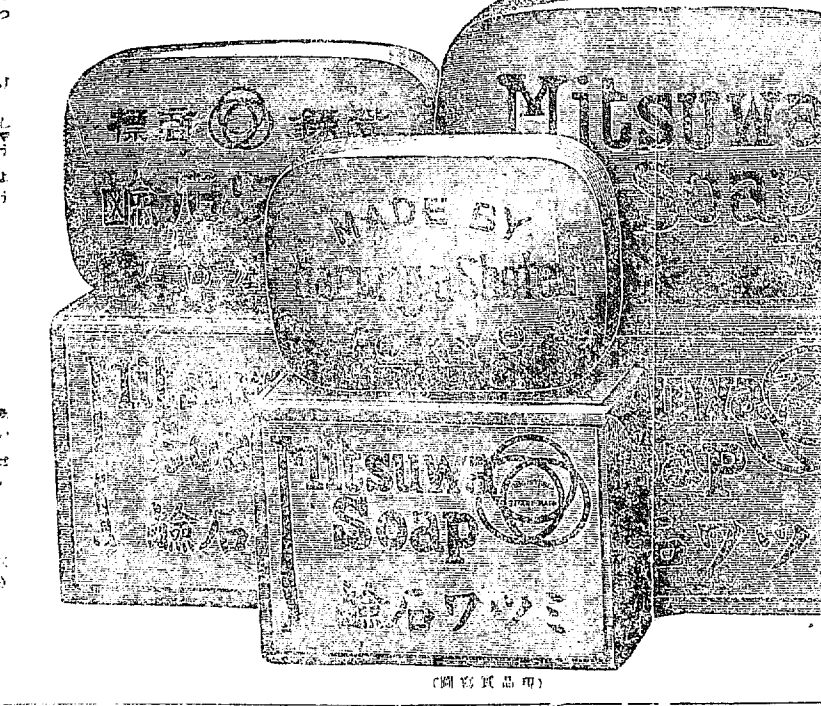


「島左近、松倉右近、城外に控へ居
ますが、この雨使何計らひ申
しませうや」
「源次郎、再應の事いひ、も
はや對面は致すまい。使者の口上も
聞くに及ばぬ。一歩も城内に入れる
事は相叶はぬぞ」
「然らば此の邊通つ返しませうや」
「勿論や。勝家が決断は、生道心
の法印の如きが従つて動くも
のではない。志のある所は、先刻
左近右近に申し附けたれば、既に承
知の筈や。重ね使節に會つて、恥
かへ無益、只通つ返せ」
勝家は斷然として言ひ放つた。
再び口を開かなかつたが、文雄は
其言を腹に納めた。雨使も返
す辭なく、悄然として城外を引き
去る。

「これは六左衛門死すおぼすま
す。御用とあらば前に御進仕しま
す。いや、其方業用の分が所望や
即ち脱いで勝家に着せませう」
「是れは近來遠慮千慮、こは言つた
が前回は食まれぬので、誰かそれを
殺さうぞ」
「何と云へられませう」
「其方が忠義の義は、勝家くち
に居る、就て其方ならでは勝家は
一義ある、其を承引致して貰ひた
い」軍扇を腰に突いて、いよいよ
乗り出した。

「六左衛門、お召しに寄つて出仕仕
るさ、経帷子の襟を正して、末座に
平伏した」
「六左衛門、今生の別れや、林
を與さう」
勝家は太刀を乾して六左衛門に與
へた。六左衛門は、恭しく受けて、
遠くを渡る芳志を吹ながら、
「御恩の御杯、僅く頂戴仕ます
るさ、押葉いて美事に飲干した」
「六左、勝家が今生の頼みがある、
其方聞き付けてはくやうなれや」
「は、御頼みは恐れ、唯だ何事
にても御受け付けられませう。六左
は、は、心安く承知致して、勝家
様、に、存する。早速やが六左、
その経帷子勝家に申し受くる」

「六左衛門、お召しに寄つて出仕仕
るさ、経帷子の襟を正して、末座に
平伏した」
「六左衛門、今生の別れや、林
を與さう」
勝家は太刀を乾して六左衛門に與
へた。六左衛門は、恭しく受けて、
遠くを渡る芳志を吹ながら、
「御恩の御杯、僅く頂戴仕ます
るさ、押葉いて美事に飲干した」
「六左、勝家が今生の頼みがある、
其方聞き付けてはくやうなれや」
「は、御頼みは恐れ、唯だ何事
にても御受け付けられませう。六左
は、は、心安く承知致して、勝家
様、に、存する。早速やが六左、
その経帷子勝家に申し受くる」



凡そ石鹼は工業用、洗滌用、洗濯用、浴槽
用化粧用等各用途に従つて其種類を異に
すと雖も、而かも皆等しく、遊離の亞爾加
里なく遊離の脂肪なく、些の混合物なき
化學上の純石鹼たらざるべからざるは、
素より當然のことなりとす
皮膚の分泌量多くして而かも粗慥なる本
邦人の皮膚、及漆黒を貴ぶ毛髪を洗滌に
用ふべき化粧用石鹼は、當に化學上の純
石鹼たるの故のみを以て、其適否を論す
べからず

一、原料を精選し、脂肪に香料に、荷も刺
戟を感ずべき虞あるものを用ひず。
一、溫雅の芳香を有す。
一、細き泡沫を生じ、適度の溶解性を備
へて能く水にも溶解し、而かも浴室
に用ひて中途に溶け崩るゝが如き憂
ひなし

本舗 ミツワ石鹼 發賣元 丸見屋商店
ミツワ家庭薬油
ミツワ化粧用品
御園化粧用品
東京市日本橋區橋町四丁目
藥劑 滋養品 石鹼 香粧品 小間物問屋
電話 略 〇ミヤ 振替口座東京七一〇
營業部電話 長浪花三〇四四八四四九四五〇
後場の手振り 〇ミヤ 振替口座東京七一〇
電話 略 〇ミヤ 振替口座東京七一〇
營業部電話 長浪花三〇四四八四四九四五〇

朝鮮郵船		汽船釜山出帆廣告		共同汽船出帆	
釜山丸	三月三日	釜山丸	三月三日	釜山丸	三月三日
仁川丸	三月三日	仁川丸	三月三日	仁川丸	三月三日
元山丸	三月三日	元山丸	三月三日	元山丸	三月三日
...